Lifesaving World Championships Riccione 2022 報告書

日本ライフセービング協会派遣審判員
競技審判委員会
中島典子

■もくじ

1. 派遣期間スケジュール
2. 日本からの審判員
3. イタリア入国・宿泊（アパート）
4. マスターズ応援・ブリーフィング・ガーラディナー
5. アワードセレモニー
6. オーシャンエリアの運営
7. ビーチエリアの運営（奈良部真弓さん）
8. 新型コロナウィルスに感染・隔離闘病生活
9. その他 、受けられたサポート

■派遣期間・スケジュール:

2022/10/24 日本出国
2022/10/25 イタリア入国
2022/10/26 マスターズ応援・ブリーフィング・ガーラディナー
2022/10/27-11/01 テクニカルオフィシャル
　2022/10/29 アワードセレモニー
2022/11/02-09 新型コロナウィルス感染・隔離
2022/11/10 イタリア出国・日本帰国

■日本からの審判員:

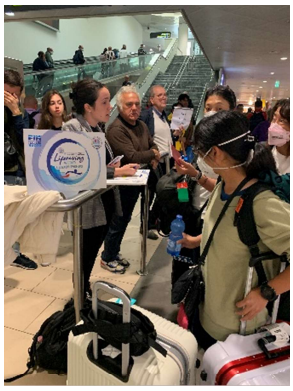
泉田 昌美さん（LWC3 回目）、栗栖 清浩さん、田中 えりかさん（LWC3 回目）
奈良部 真弓さん、浜地 憲太郎さん（JLA 派遣枠）、中島 典子（JLA 派遣枠） 計 6 名

※公募についてはこちら https://ls.jla-lifesaving.or.jp/news-lifesaving-sports/20210818-7231/

■イタリア入国・宿泊（アパート）:

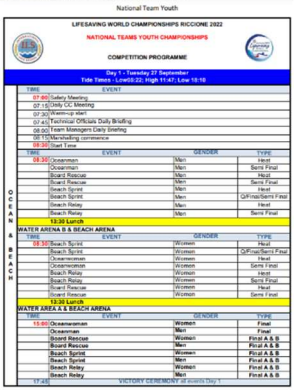
　ドバイを経由して、イタリア/ボローニャに到着。
空港ではボランティアのかたがプラカードをもって待っていてくださっているのを見つけて「いよいよ始まるんだ！」ととてもワクワクしました。そこから大会会場であるリッチョーネまでは1時間ほどのバス移動でした。

　今回の宿泊は、本来実施される予定であった 2020 年大会に向けての準備の段階から田中えりかさんが手配してくださいました。プール会場に近く、オーシャン会場へ向かうバス停へのアクセスもよく、とても静かで清潔な環境で、延期期間も含め大変快適に過ごすことができました。



■マスターズ応援・ブリーフィング・ガーラディナー（2022/09/26）

　現地入りして 2 日目は早朝から始まるマスターズのレースに出場する本田辰也さんの応援に行ったところ、ビーチスプリントでの優勝の瞬間に立ち会うことができました。イタリアについて 24 時間も経たないうちにこれ以上ないくらいの感動を味わい、興奮冷めやらぬままプール会場にてブリーフィングに参加し、その後ガーラディ ナーへ向かいました。


National Team Youth

LIFESAVING WORLD CHAMPIONSHIPS RICCIONE 2022

NATIONAL TEAMS YOUTH CHAMPIONSHIPS

COMPETITION PROGRAMME

Day 1 - Tuesday 27 September

Tide Times - Low(0.22) High 11:47; Low 16:18

TIME	EVENT
07:00	Safety Meeting
07:15	Unity CC Meeting
07:30	Warm-up start
07:45	Technical Officials Daily Briefing
08:00	Team Managers Daily briefing
08:15	Marshalling commence
08:30	Start Time

TIME	EVENT	GENDER	TYPE
08:30	Oceanman	Men	Heat
	Oceanman	Men	Semi Final
	Board Rescue	Men	Heat
	Board Rescue	Men	Semi Final
	Beach Sprint	Men	Heat
	Beach Sprint	Men	QFinal/Semi Final
	Beach Relay	Men	Heat
	Beach Relay	Men	Semi Final
13:30	Lunch		

OCEAN BEACH

WATER AREA B & BEACH ARENA

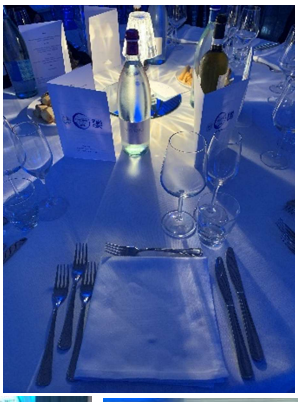
TIME	EVENT	GENDER	TYPE
08:30	Beach Sprint	Women	Heat
	Beach Sprint	Women	QFinal/Semi Final
	Oceanwoman	Women	Heat
	Oceanwoman	Women	Semi Final
	Beach Relay	Women	Heat
	Beach Relay	Women	Semi Final
	Board Rescue	Women	Heat
	Board Rescue	Women	Semi Final
13:30	Lunch		

WATER AREA A & BEACH ARENA

TIME	EVENT	GENDER	TYPE
15:00	Oceanwoman	Women	Final
	Oceanman	Men	Final
	Board Rescue	Women	Final A & B
	Board Rescue	Men	Final A & B
	Beach Sprint	Women	Final A & B
	Beach Sprint	Men	Final A & B
	Beach Relay	Women	Final A & B
	Beach Relay	Men	Final A & B
17:45	VICTORY CEREMONY (at events Day 1)		

ガーラディナーへは、入谷理事長、中川容子さん、泉田昌美さん、田中えりかさんと一緒に参加させていただきました。コロナ禍で参加人数が縮小されていると聞いていましたが、それでも各国から合計 150 名ほどはいらしたように思います。

ずっとお会いしたいと思っていたグレッグさん（Sports Commission & Lifesaving Sport Regulations Committee の委員長で、日本からは栗栖清浩さんがメンバー入りしています）にご挨拶できたことがとても嬉しかったです。容子さん、ありがとうございました。



■アワードセレモニー（2022/09/29）

LWC に審判として参加した回数に応じて、ILS のバッジが贈られます。
3 回から順に、銅バッジ、5 回：銀バッジ、8 回：金バッジ、10 回：プラチナバッジ、12 回：ダイアモンドバッジとのことでした。人数がたくさんいらしたのでどんどんお名前を呼ばれるかたちではありましたが、表彰対象者はみなさんとても誇らしそうで、会場全体にあふれる暖かく称えあう雰囲気に、とても幸せな気持ちになりました。
泉田さん、えりかさん、おめでとうございます！

■オーシャンエリアの競技運営:

オーシャンのテクニカルオフィシャル（以下 TO）は、A、B の 2 チームに分かれて進めるかたちで、わたしは着順札を渡す役割をいただきました。以下に印象に残ったことをまとめます。

- エリア設営はメジャーを使わず歩幅で計測
  あとについて測ってみたら完璧でした（中島は大股 1 歩が 1m です）

- スタート前に必ずチーフジャッジからルール説明がある
  選手から説明を求めている様子だったのが印象的でした。
  日本では、ルールと異なるブイや旗を回る場合などに、必要に応じておこなっています。

中央付近の白いキャップがチーフジャッジ

- サーフ種目においても、フィニッシュジャッジをおいている
  とても効率がよく正確で、着順判定の負担の軽減や TO の人数縮小にもつながるので日本でも導入したいと思います。

  スキーと、レスキュー種目は、フィニッシュラインの両端にそれぞれ 2-3 名ずつ配置され、個々に着順をメモし、レース終了後すぐにフィニッシュジャッジ全員で確認。意見が割れた部分はビデオを確認し順位を確定させてから着順札を渡す。更にレコーダーとフィニッシュジャッジもダブルチェックをするという運用をしていました。

  メモには順位と国名だけが書かれていて、札を渡す際には国名だけを読み上げていましたが、例えばオーストラリアから 2 名出場している場合も、該当の選手がスムーズに進み出てきて混乱はありませんでした。

  サーフレースとボードレースは、後続の選手の邪魔にならない位置（砂）に線を引き、フィニッシュライン付近にいる TO ほぼ全員で着順を崩さないように並ばせ、全員のフィニッシュを確認してから順位を確定させて札を渡していました。

選手を誘導するための線と列　　レコーダーとフィニッシュジャッジのダブルチェックの様子

- スキーの着順判定は LWC でも「今日一番の大仕事（最大の難関）」
  セクショナルレフリーのピーターコーネルさん（御年 70 歳以上？の大先輩）が、レース前には「今日一番の大仕事だ！集中しろ！」と力強く鼓舞し、終わってからは「難しかったが本当によくやった！My Officials！！！」と、大会中一番くらいねぎらってくださいました。

中央の赤いキャップのかたがピーターコーネルさん　IRB ジャッジの皆さん

- コーヒーブレイクが長く、たくさんある
  諸事情あってのことのようでしたが、ビーチに常設されているカフェでの 1 時間を超える休憩（ランチとは別）はとても新鮮でした。そして会場で目の前でつくってくださるランチが熱々で美味しく、とても幸せでした。

- 防水バインダー
  4 日目は途中から雨が降ってきたのですが、レコーダーにすかさず登場した防水バインダーが画期的だったので、イタリアにいるうちに購入しオーシャンサーフチャレンジ白浜から導入しました（本当は、全日本本選で使えるはずでした・・）

- ビデオ判定用タブレット
  とても画質が粗く着順判定に使える状態ではなかったので、個人のスマートフォンで代用していました。（ビーチエリアでも同様だったようです）

- その他の器材の紹介

薄いプラで刺しやすいペグ/ポールを刺す穴を掘る道具持ち手は T 字になっていてグルグル沈めるように使う

■ビーチエリアの運営（奈良部真弓さん）

- 整地がバギー
  バギーの後ろに紐でパレット（フォークリフト伝う時に荷物を乗せておく台）をつけ引っ張って一回でザー！と平にしてくれました。ちゃんと１コースの幅です。すごく運転も上手かったです。

- 判定しやすいビブス（前と後ろに大きく数字で番号が書いてあって、同じ色のもの） 同じ色だから番号だけ目に入るし、さらにそれを改良して両サイドにも数字を入れるとビデオ判定 もしやすくなりますね！
  （中島個人的には、色よりも数字のほうが覚えやすくメモもしやすいように思います）

- 日本のルールブックがすごい
  直訳ではなく、日本人に理解できるように言葉を尽くしてくれていて、しかも最新版が母国語で読める。本当に素晴らしいことです。そんな恵まれた環境にいる選手達には「ルールブックをちゃんと読んでほしい」と心から思いました。
  （もちろん、編纂に携わっている競技審判委員会の皆さんには共有済です！）

■新型コロナウィルスに感染・隔離闘病生活:

大会５日目のレース終了後、体調が思わしくなかったため熱を測ってみたところ 38.38℃。最終日を残して離脱が確定しました。先に感染が発覚していた田中えりかさんが同じアパートの隣室にいたので、その日のうちにそちらへ移動。丸３日は高熱、その後は唾液も呑み込めないほどの喉の痛みが続き、食事とシャワー以外は寝たきりの状態が 4-5 日続きました。 私が移動したタイミングではだいぶ回復していた田中えりかさんが食事や検査のことなど、自分も本調子ではないなか、すぐそばでとても気遣ってくれました。

日本代表団に通訳として帯同していた齊藤愛子さんが大会ドクターの指示を仰いでくれたり、トレーナーの細川英範さん、薬剤師の錦織功延さん、小西由紀さんが LINE でアドバイスをくださったり、事務局の水川さんには帰国の飛行機の変更をしていただきましたし、安心パックを差し入れてくださった入谷理事長、青木将展委員長、坂本陸コーチ、競技審判委員会のみんなや家族からの声掛けが、とてもとても心強かったです。

帰国して数週間後に行なわれたオーシャンサーフチャレンジ白浜で朽方先生が「どうして連絡くれなかったの！悲しかったよ！」とおっしゃってくださったのも本当に嬉しかったです。たくさんの皆さんのおかげで最短の隔離期間中に回復し、無事帰国することができました。
本当に、ありがとうございました！

■その他:

SANYOCUP や PatrolCompetition などでこれまでにも何度か海外の選手と接する機会はありましたが、LWC に参加させていただいて初めて本当に「世界中に」、同じ目的を持った仲間がいることを肌で感じ、終始感動しきりでした。

私の拙い以下の英語力ではもどかしいことだらけでしたが、競技審判委員会で翻訳作業に携わらせてもらっていることもありルールは聞き取れますし、今は ILS 版と JLA 版が 1 対 1（項目が揃っていて、たとえば 4.5.1 と言えばどちらでもサーフレースの競技の説明を確認できます）になっているので、日本のルールブックだけを持っていったとしても困らなかったと思います。
次回のアデレード大会には、もっとたくさんの審判「団」で参加できるように、準備してまいります。

ルールブックを指さしながら説明してもらっている様子。

今回の LWC でも、オーシャンのサーフとビーチにそれぞれ 2 名、プールに 2 名とバランスよく参加することができましたが、栗栖さんが Sports Commission & Lifesaving Sport Regulations Committee に加わったことで、日本のように TO がオーシャン、プール、SERC、IRB のすべての競技に携わる国は珍しいということを知りました。

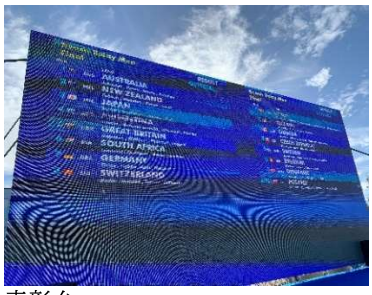
SERC は昨年念願の記念すべき第一回大会を実施し、IRB は残念ながら中止になってしまいましたがこの秋にプレ大会を予定していたまさにこれからの競技です。
競技審判委員の一員として各競技種目への理解を深め、C 級に反映させ、日本の認定審判員の有資格者であればどの競技においても最低限の知識を有している状態を目指してまいります。

結びになりますが、今回の派遣ではエントリーの段階から、たくさんのかたに支えていただきました。日本ライフセービング協会、館山サーフライフセービングクラブ、株式会社メドレーの皆さんのご理解とご協力に心から感謝しています。ここで得た経験を、日本のライフセービングスポーツの発展に活かしてまいります。
日本ライフセービング協会派遣審判として LWC2022 に派遣してくださり、本当にありがとうございました！

まぶしすぎてひどい顔だけどお気に入り

レインボーウ

大会マスコットのレスキュー犬くん

バナーが素敵

表彰台

オーシャン TO の皆様お世話になりました！